

# 協同

[特集] JAで活躍し続けるための若手職員の体系的な人材育成に向けて

2021  
July  
KYODO 7



タッグ!兵庫の農業人

但馬を代表する特産品「たじまピーマン」で  
農業所得増大をめざす

Farmer × JA staff  
瀬尾 雅仁さん  
相地 久和さん  
詳細は  
裏表紙へ

# 兵庫の農業人

生産者の皆さんとタッグを組んだ  
多様な営農活動を紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中心!

▶ YouTube で 兵庫の農業・農協発信ch 検索



今月は **JAたじま**

## 但馬を代表する特産品「たじまピーマン」で 農業所得増大をめざす

ピーマンの生育状況を確認しながら会話する  
瀬尾雅仁さん(左)、妻の由香李さん(中央)と相地久和さん



### 生産者

瀬尾農園  
たじまピーマン生産者  
**瀬尾 雅仁さん**

他の農家さんへピーマン栽培を  
アピールして、仲間を増や  
していきたいです!また、農  
家以外の近隣の子どもや  
住民たちにも関心をもっ  
てもらえるように農業の魅  
力を伝えていきたいです!

### JA職員

JAたじま 出石営農生活センター  
営農相談員  
**相地 久和さん**

水稲栽培に加えて、夏場の安  
定した収入源にできるたじま  
ピーマン栽培をさらに拡大さ  
せ、特産品で地域農業を積極  
的に盛り上げていきます!

但馬地域は、夏から秋にかけて収穫する「たじまピーマン」の産地だ。豊岡市では約50年前から栽培されており、現在は但馬全域で栽培される一大特産品となっている。

豊岡市出石地区の瀬尾雅仁さんは、夏場の収入源となる作物の栽培を考えていた。妻の由香李さんに負担がかからないように、力仕事をあまり必要とせず、女性でも作業がしやすい品目を探していたところ、JAたじま出石営農生活センターで営農相談員をしている相地久和さんから、たじまピーマンの栽培について提案を受けた。瀬尾さんは、JAたじまがピーマンを特産振興の重点品目に位置付けていることもあり、相地さんの豊富な知識を頼りにピーマン栽培を始めた。

100本から開始した瀬尾さんは、3年目となる現在は1,200本(18a)に拡大した。栽培の拡大には相地さんとの信頼関係があった。「ピーマンの圃場を見ると相地さんが様子を見に来てくれていて、僕以上にピーマンのことを気にかけてくれる姿に、増やしていきたい気持ち

が後押しされた」と話す。

相地さんは「栽培期間中は圃場へ出向いて、栽培指導や情報提供・共有等を行っており、なによりも農家さんのやる気を応援できるように、受けた相談には素早く対応することを心掛けている」と話す。

たじまピーマンの特産振興の取り組みの結果、今年度はピーマン協議会に所属する173人が10万7,000本を栽培する関西最大級の夏秋ピーマン産地となっている。

JAたじまは生産者とともに、高い品質と安定した収量を実現し、さらなる産地拡大をめざしている。

### 特産品たじまピーマンの産地拡大

但馬地域の**豊かな自然**を生かし、  
**関西最大級の夏秋ピーマン産地**へ発展

R3  
生産者数 **173人**

R3  
栽培本数 **10万7,000本**